

平成30年度 地域包括支援センター 活動状況について

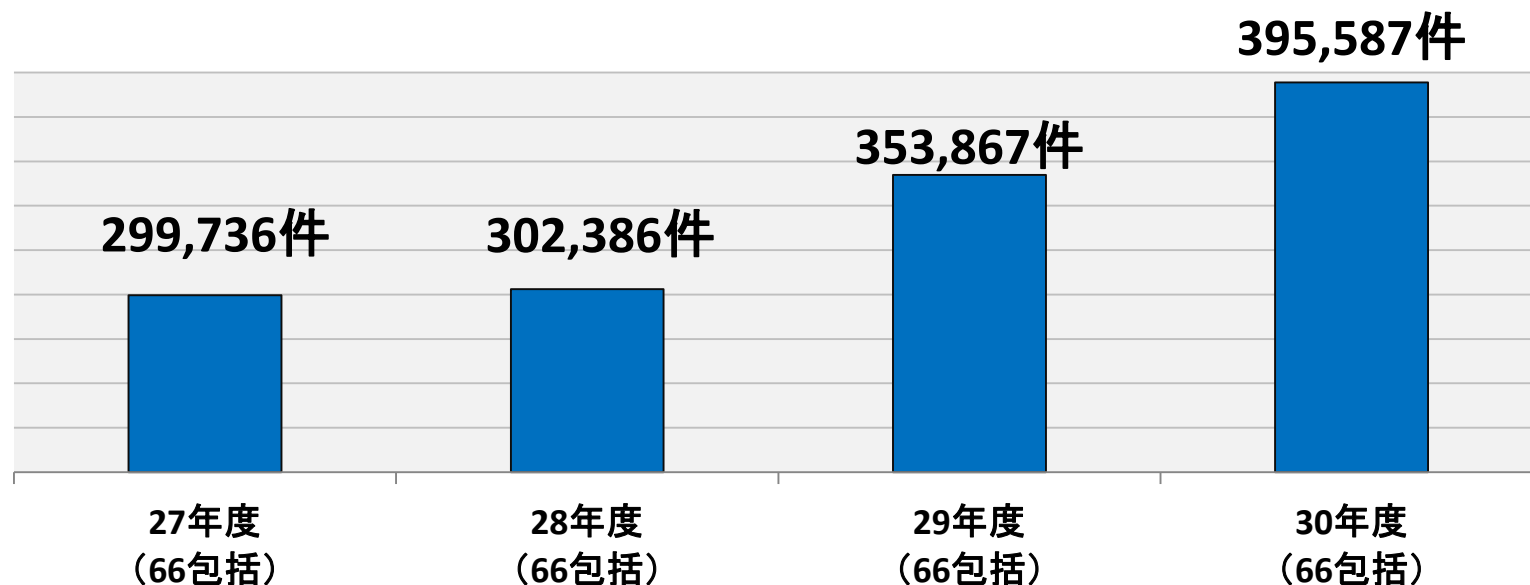
令和元年度第1回大阪市地域包括支援センター運営協議会
令和元年7月3日（水）

大阪市社会福祉協議会 地域福祉課

(1) 高齢者の総合相談（包括）

①-1 延べ相談件数（総数）

- ・平成30年度の延べ相談件数は平成29年度と比べ41,720件（11.8%）増えている。



延べ相談件数が多い包括

- ・城東区（3,478件）・都島区（3,320件）・住之江区（3,046件）

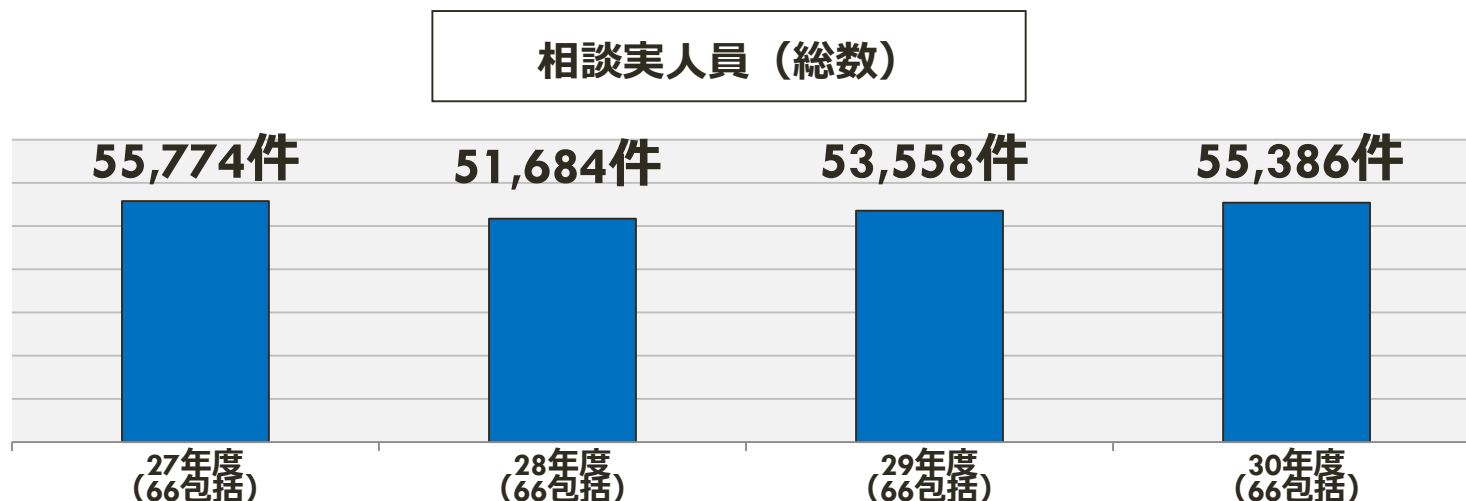
延べ相談件数の伸び率の高い包括

- ・阿倍野区北部（66.8%）・都島区（59.3%）・城東区（55.1%）

(1) 高齢者の総合相談（包括）

①-2 相談実人員

- ・実人員は昨年に比べ微増している。
- ・相談実人員における訪問相談の割合は46.3% → 46.8%と微増している。



高齢者人口に占める相談実人員の割合が高い包括

- ・ 鶴橋（17.9%）
- ・ 東生野（12.3%）
- ・ 生野（12.2%）

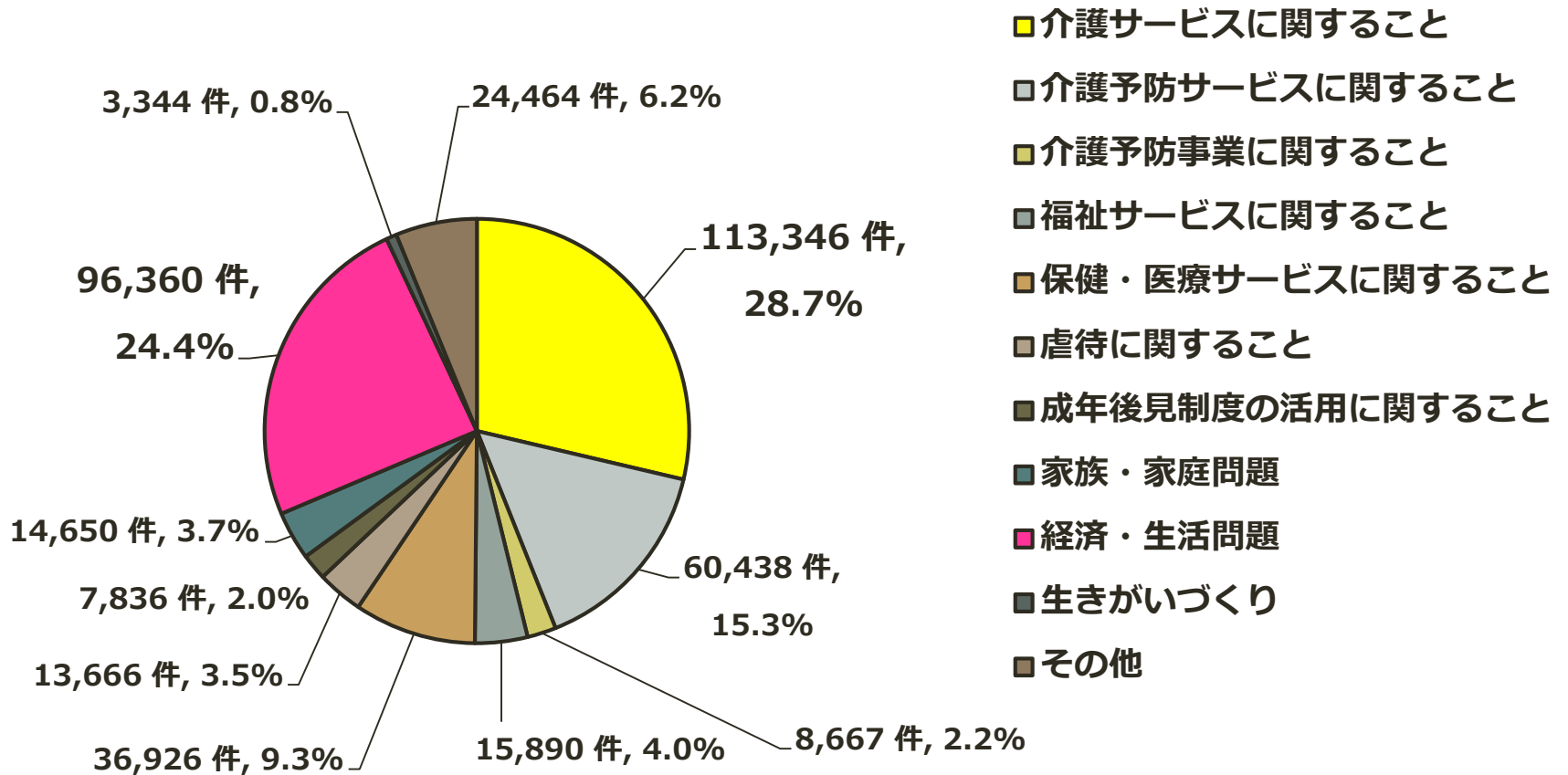
相談実人員における訪問相談の割合が高い包括

- ・ 東住吉区北（68.1%）
- ・ 鶴橋（68.0%）
- ・ 旭区西部（65.1%）
- ・ 鶴見区（60.9%）
- ・ 加美（60.1%）

(1) 高齢者の総合相談（包括）

①-3 総合相談内容

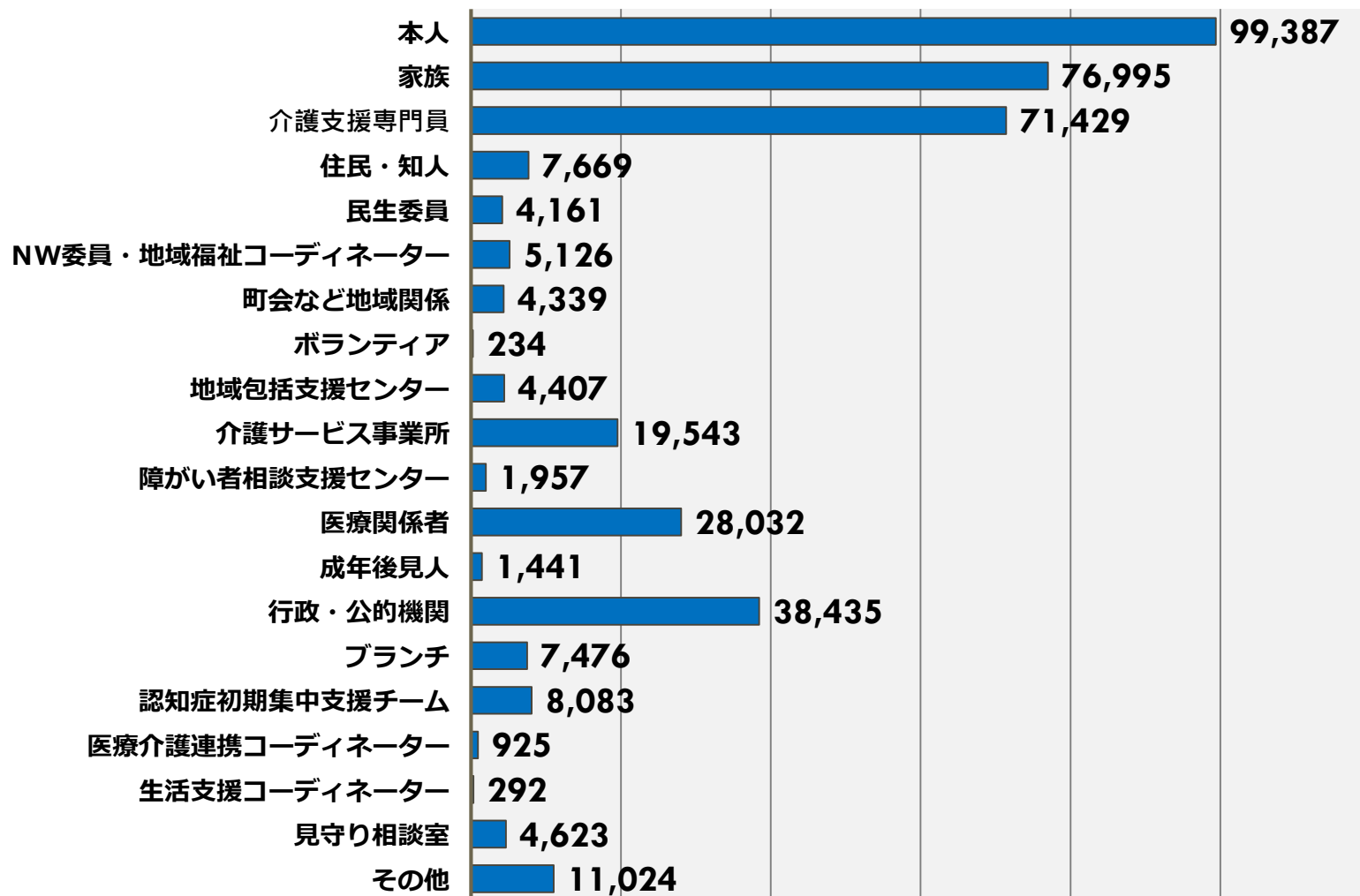
・相談内容の内訳は「介護サービスに関すること」「経済・生活問題」の順に多い。



(1) 高齢者の総合相談（包括）

②相談相手

- ・「本人」「家族」「介護支援専門員」の順に多い。



(1) 高齢者の総合相談（包括）

〔総合相談件数からの考察〕

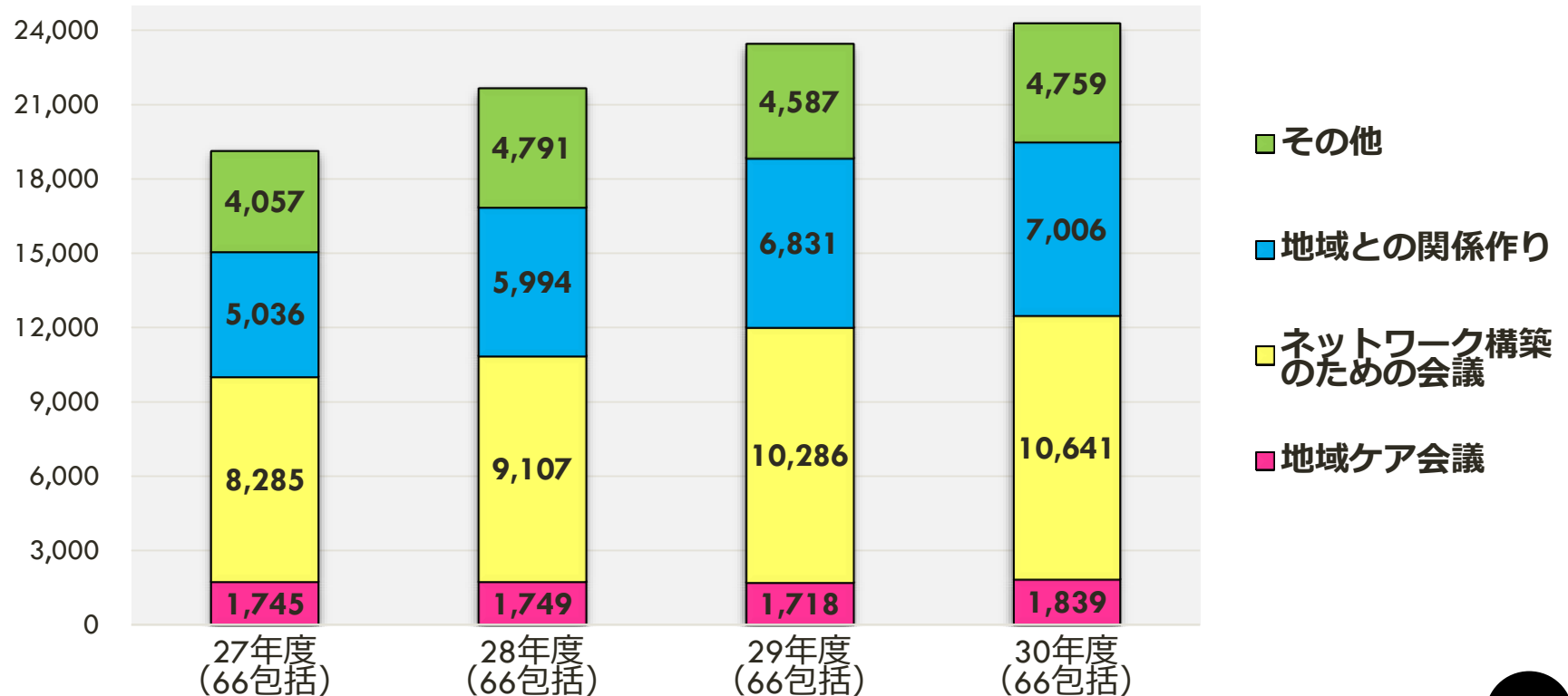
- 相談延べ件数は前年度と比較し、77%の包括で相談件数が増加している。
- 相談実人員の47%が訪問による相談となっている。
- 相談件数の多い包括では、区が一体となり取組んでいる事業があり、地域関係者の方々と定例の話し合いの場などの協働した取組みや、複合的課題や経済的課題があり、世帯としての支援や成年後見制度活用への支援などから、多機関・他職種と連携している。
- 地域づくりをめざした関係機関との連携として、認知症初期集中支援チームのみならず、医療・介護連携コーディネーターや生活支援コーディネーターとの相談件数の伸びが期待される。

(2) 包括的・継続的ケアマネジメント

①-1 会議開催・参加状況（全体）

- ・ 会議開催の総数は微増しており、それぞれの会議においても微増している。

会議開催数（総数）

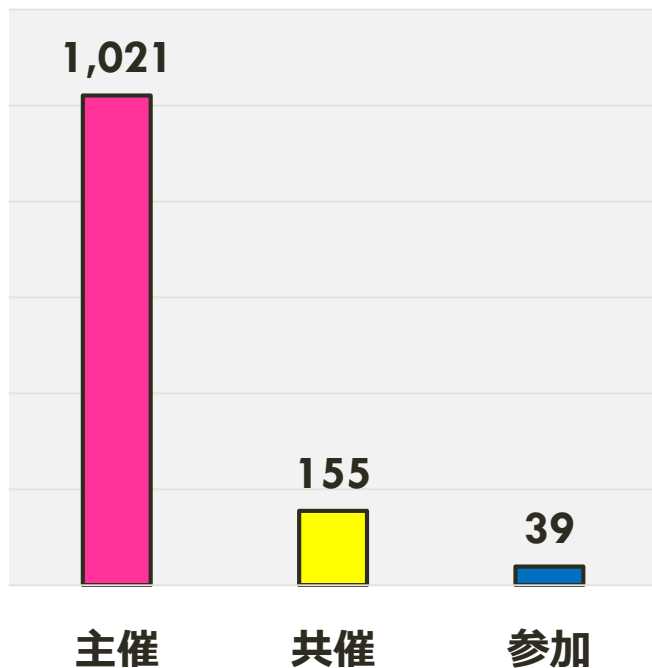


(2) 包括的・継続的ケアマネジメント

① - 2 会議開催・参加状況 (地域ケア会議)

1. 個別ケース検討の地域ケア会議

- ・個別ケース検討の地域ケア会議では、継続した支援の中で、支援経過の確認や危機介入の時期の検討、モニタリング、法定後見人への引継ぎの場としても開催されている。

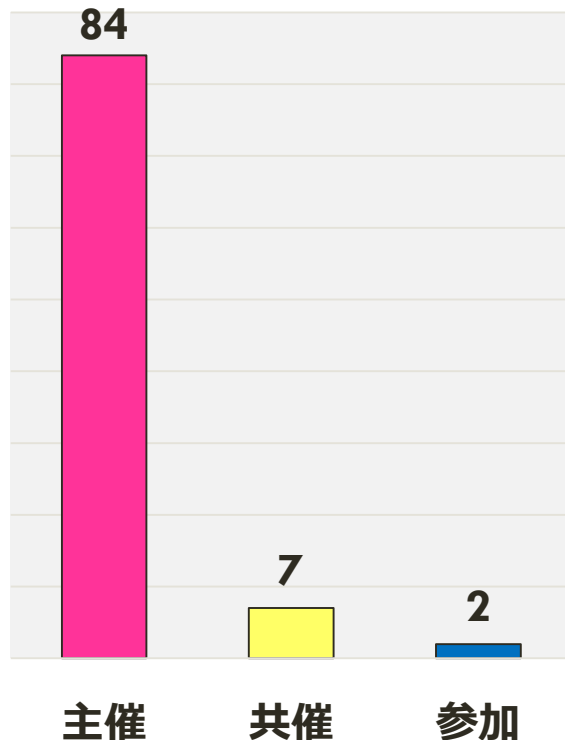


主催・共催開催数が多い包括

- ・東成区北部 (56回)
- ・都島区北部 (41回)
- ・西成区 (37回)
- ・天王寺区 (35回)
- ・阿倍野区 (34回)
- ・東成区南部 (33回)
- ・中野 (32回)
- ・旭区東部 (32回)
- ・西成区北西部 (31回)
- ・大淀 (30回)
- ・西淀川区 (30回)

2. 事例検証・ふり返りの地域ケア会議

- ・ 66 包括の71%が、「年度の特徴的な事例」や「小地域ごとにスーパーバイザーを招いての検証」などを開催されている。
- ・ 支援者や関係者のスキルアップや地域課題の集約につなげている。

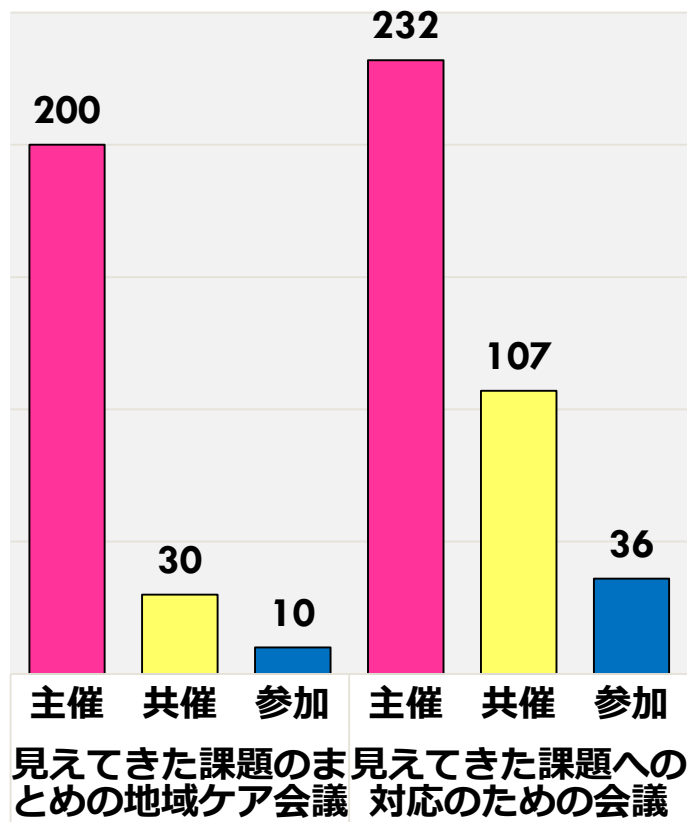


主催・共催開催数が多い包括

- ・ 西区 (11回)
- ・ 中央区北部 (5回)
- ・ さきしま (5回)
- ・ 此花区南西部 (4回)
- ・ 天王寺区 (4回)
- ・ 住吉区北 (4回)
- ・ 西成区 (4回)

3. 見えてきた課題のまとめの地域ケア会議 見えてきた課題への対応のための会議

- ・ 個別支援の地域ケア会議から見えてきた地域の課題を集約し、共通した課題をまとめ、地域の関係者に報告し取組みを検討する場として開催されている。



見えてきた課題のまとめの地域ケア会議主催開催数が多い包括

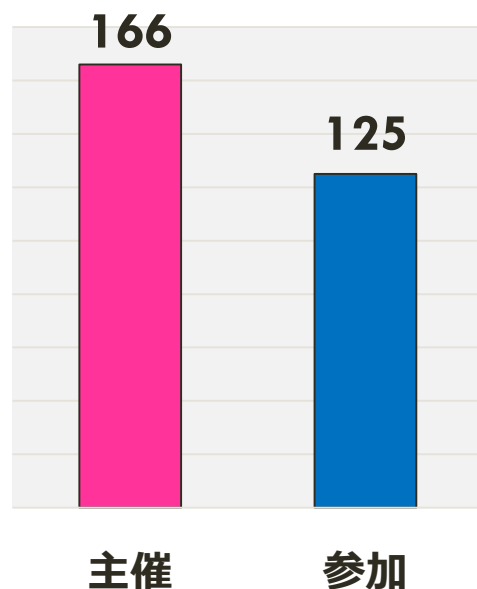
- ・ 東生野 (31回)
- ・ 天王寺区 (19回)
- ・ 阿倍野区 (14回)

見えてきた課題への対応のための会議主催開催数が多い包括

- ・ 都島区 (74回)
- ・ 城東・放出 (28回)
- ・ 淀川区 (26回)

4. 自立支援型検討会議

- ・ 検討会議は平成30年度途中から、自立支援・介護予防の観点を踏まえて地域ケア会議個別会議を活用し、「要支援者等の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立を促すこと」ひいては「高齢者のQOLの向上」を目指し、また、介護支援専門員等のスキルアップも目的として開催されている。

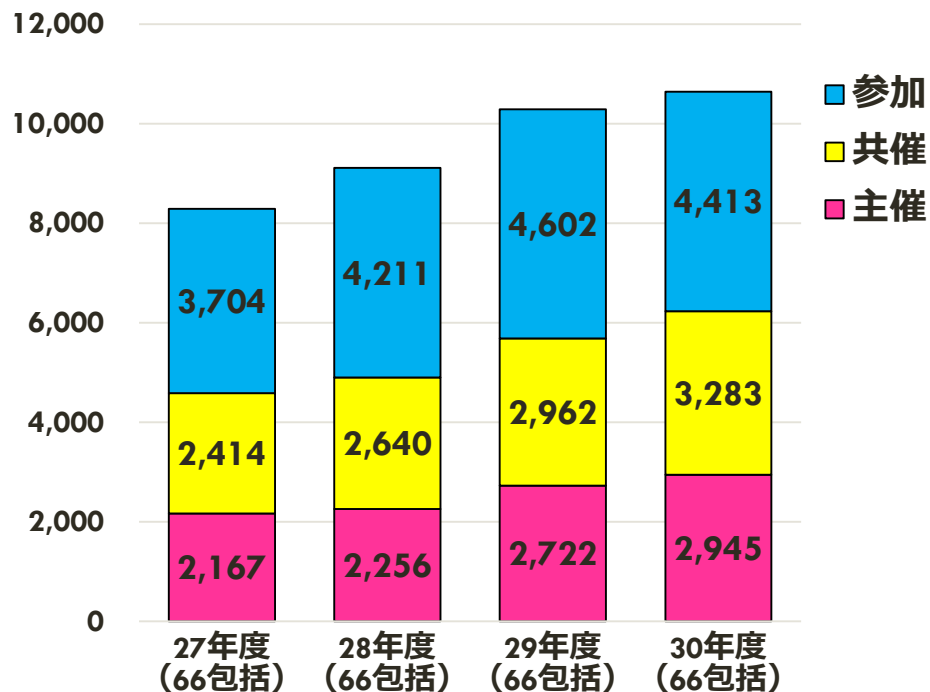


- ・ 最高開催数 4回
- ・ 平均開催数 2.5回
- ・ 3回開催の包括が最も多い (30包括)

(2) 包括的・継続的ケアマネジメント

① - 4 会議開催・参加状況（その他NW構築）

- ・ その他NW構築の会議は3%と微増。
- ・ 開催形態は「主催・共催」が前年度から約10%増加している。



主催が多い包括

- ・ 東住吉区 (239回)
- ・ 生野区 (229回)
- ・ 天王寺区 (180回)

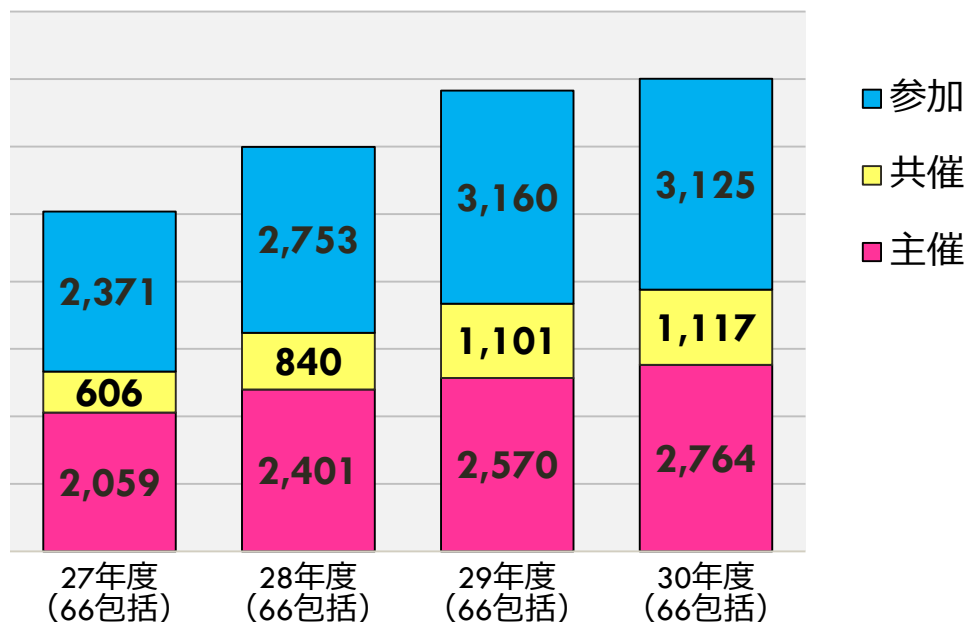
共催が多い包括

- ・ 西区 (248回)
- ・ 城東・放出 (159回)
- ・ 東成区北部 (145回)

(2) 包括的・継続的ケアマネジメント

① - 5 会議開催・参加状況 (地域との関係づくり)

- ・ 地域等との関係づくりに関する会議は約3%と微増。
- ・ 主催・共催の会議は前年度から約6%増加している。



(2) 包括的・継続的ケアマネジメント

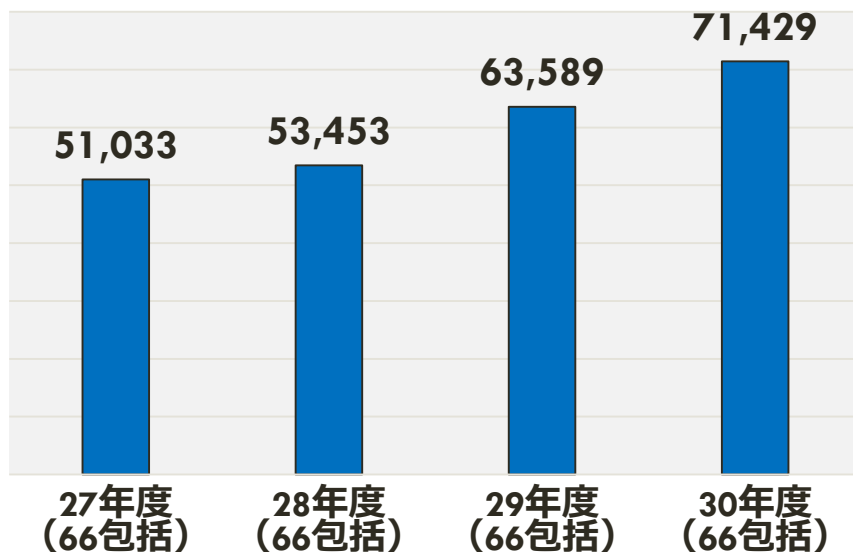
〔会議開催・参加状況についての考察〕

- 前年度と大きな変化はなかったが、会議形態について、「主催」「共催」の割合が増加傾向にあり、主体的に連携を深めるための関係づくりへとつなげている。
- 関係機関との連携として、在宅医療・介護連携コーディネーターや生活支援コーディネーター、そして強化型地域包括支援センターとの会議も増加傾向にあり、地域づくりをめざした取組みが期待される。

(2) 包括的・継続的ケアマネジメント

③ 介護支援専門員への支援

- ・ 介護支援専門員個別相談件数は12.3%増加している。
- ・ 件数が増えている包括は、同行訪問やその後の進捗確認を行うなどていねいな関わりをしている。



前年度からの 伸び率が高い包括

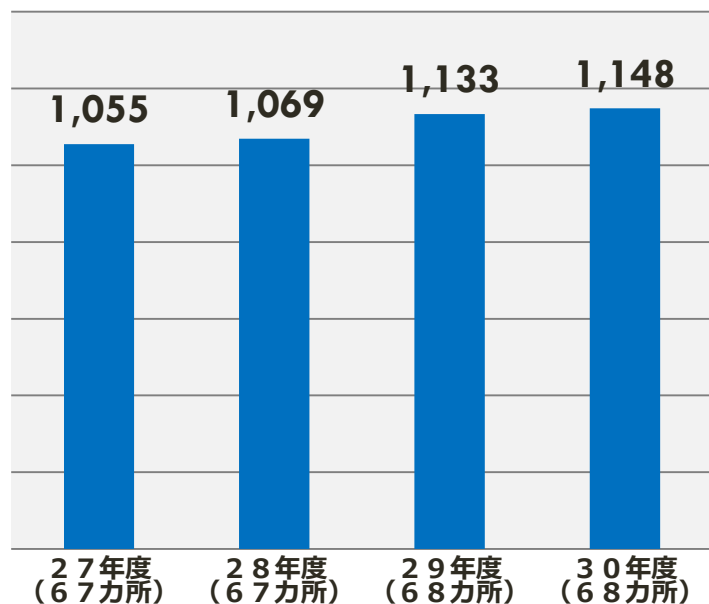
- ・ 城東区 (73.0%)
- ・ 長吉 (71.2%)
- ・ 都島区 (64.5%)
- ・ 鶴橋 (59.2%)
- ・ 城東・放出 (54.7%)

(3) 総合相談窓口 (ブランチ)

① 延べ相談件数

- ・平成25年度より相談員1人配置移行にともない、ブランチ1カ所あたりの延べ相談件数は増加し、一定の相談件数を保っている。

延べ相談件数 (1ブランチあたり)



延べ相談件数が多いブランチ

- ・ あいりん (3,119件)
- ・ 昭和 (2,281件)
- ・ 浪速 (2,174件)

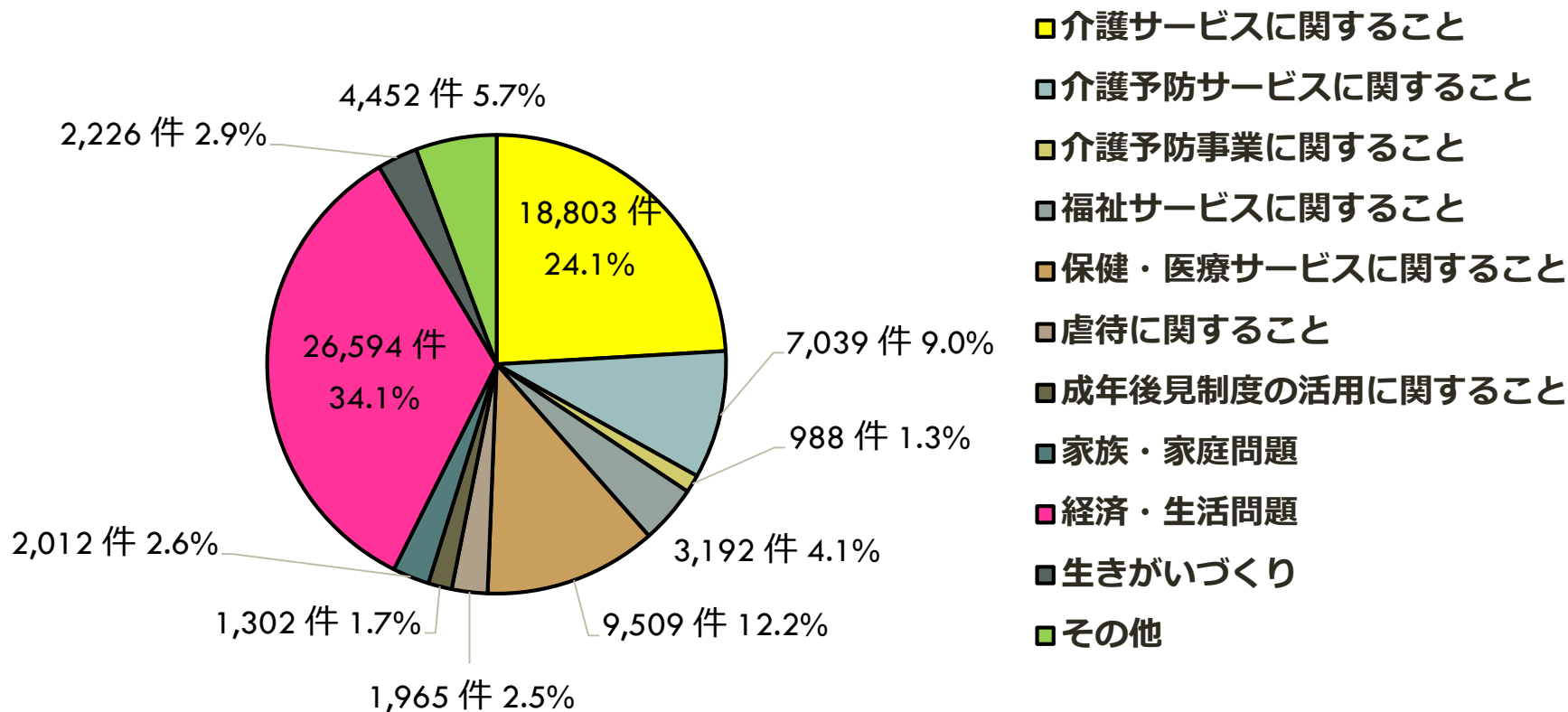
延べ相談件数の伸び率が高いブランチ

- ・ 淀 (1,341件 143.8%)
- ・ 大桐 (1,348件 97.7%)
- ・ 佃 (2,036件 55.9%)

(3) 総合相談窓口 (ブランチ)

② 総合相談内容

- 相談内容の内訳は「経済・生活問題」「介護サービスに関すること」の順に多い。



～包括連絡調整事業における実績分析について～

市内の包括では地域の実情に合わせた様々な取組みがすすめられている。

各包括における取組みについて、訪問による聞き取りなどを行いながら実績とも交えて考察し、包括・ブランチに参考としていただけるように、内容をフィードバックしていく。

今年度も更なる包括の取組み・実績の把握に努める。

大阪市社会福祉協議会 地域福祉課